

# さちひろ

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 TEL072-365-2571

E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡

天理教狭千廣分教会の広報紙

- 1面・ちば・かんろだいを考える
- 2面・幸せを届ける言葉
- 3面・おやさま逸話篇から
- 4面・教会の動き・編集後記

## 教会の動き

- 朝づとめ：毎朝・6時30分
- 夕づとめ：毎夕・7時00分
- 春季大祭：1月21日午後1時30分
- 秋季大祭：10月21日午後1時30分
- 月次祭：毎月21日 午後1時30分
- 春・秋季霊祭：3月22日、9月22日 午後1時30分

※教会の場所は、左の地図の★マーク。市立公民館の裏・西側です。



### 別席団参

右のポスターの画像にありますとおり、来る6月24日は、狭千廣分教会の上級教会・狭山分教会で、別席団参を実施いたします。

この際、この別席を受けてみよう、聞かせてもらいたいという方は、下の電話番号までご連絡ください。

### こどもおちばがえり

巻頭言に記しましたように今年も7月26日〜8月5日まで、恒例のこどもおちばがえりが天理教教会本部で開催されます。当教会からも団参を計画しております。日程など詳細が決まり次第、チラシなどお知らせします。ふるってご参加ください。

## ちば・かんろだいを考える

禪宗ではその修行の指針として「不立文字」が説かれるそうです。文字を立てないと書きますが、文字が不要と言う意味ではなく、文字や言語には限界があって十分に本意を伝えることができないという意味です。この世に存在するものすべてがそのまま真実を語っている；だから解説のための文字や言語は不要、たと言うのです。

真理というのは、本来、文字や言葉に表すことができません。文字にしようとする一部分しか伝えることができません。宗教の世界では、よくことを月差す指にたとえます。愚かな人は、「月差す指」、その指を見て月だと思ってしまう。本来の目指す月を忘れ、その手段でしかない指に執着してしまいます。これが人間の常です。

天理教の用語「ちば・かんろだい」の語についても同じようなことが言えそうです。ちばは「地場」で、「その地方や地域。その地元(じもと)」と国語辞典に出ています。かんろだいは「甘露」「台」ですから、甘露を受ける「台」だということは、わかりやすい。しかし、これらはいわば「指」であり「文字」であって、神意はその奥にあるのです。「このたびのかんろふたいとゆうのもな これもいま、でしらん事やで(十号77)」と言われます。

ちばは親神が人間を創められた元の場所、その証拠としてそこにかんろうだいが建てられています。

## 編集後記

▼先月植えたつたキュウリやナスの苗は大きく成長して、キュウリはすでに何本も収穫して、幾度もわが家の食卓に上っております。植物の成長の早さに目を見張るきようこのごろです。

▼「さちひろ」第17号をお届けします。巻頭から2ページには、少し前に上級教会(狭山分教会)青年会の機関紙「飛躍」に掲載しました原稿を加筆・訂正して、書き改めました。内容的には本紙に相応しくないと考えたのですが、こどもおちばがえりの前ですので、ちば・かんろだいの意義を掘り下げてみました。

▼わがホームページのブログは、つとめて毎日書き込もうとされていますが、なかなかできません。http://sachihiro.com「#やまさんのブログ」からお入りください。

### さちひろ 第17号

編集兼発行人・山口 渡  
平成19年6月6日  
大阪狭山市今熊1丁目1-133番地  
TEL・072-365-12571



す。この台を囲んで人間を創められたそのときさながらにおつとめをつとめて、この世を陽気ぐらしに立て替えようというのが親神の思召です。

まず、そのかんろだいの歴史を見ておきましょう。明治8年、そのかんろだいが据えられるちばが定められました。そしておつとめの準備が着々とすすめられ、明治14年からかんろだいの製作が開始されました。しかし翌明治15年、二段までできたかんろだいが官憲によって没収されてしまいました。

その後、明治21年7月24日のおさしづ「本部神殿祀る所の伺」で、神殿の増築の仕方を指図されています。教会本部が東京で認可されてそれをちばに移転することになって、神殿(つとめ場所)の建て増しが決まったからです。このときまで、かんろだいは屋外にあったのですが、おさしづは、つとめ場所の建物の中に取り込むよう指示されました。

明治21年7月24日(陰暦6月16日)「本部神殿祀る所の伺」というおさしづで神殿の増築の仕方をさしづされています。教会本部が東京で認可されてそれをちばに移転することになって、神殿(つとめ場所)を増築することになったのですが、思召の中心は、かんろだいをつとめ場所の建物の中に取り込む点にあったようです。それを受けて、

